

天文資料 保井春海「天文分野之圖」の寄贈について

寄附採納願

一 天文分野之圖 壹 軸

右之品拙宅鳥居家祖先之遺物に有之候處今般貴天文臺の參考資料として寄附仕度候付御採納被下度此段御願申上候也

愛知縣名古屋市西區北野町三丁目一番地

昭和九年十月十五日

鳥居常雄 ㊞

京都花山天文臺長 山本一清 殿

天文分野之圖寄附者の身分及祖先の略歴

一 寄附者の身分

寄附者鳥居常雄は舊尾張藩士の子にして明治九年名古屋に出生す。官退役陸軍工兵少尉にして長く逓信省に勤務し技師たりしが退職後名古屋市中區鹽竈神社神職となり現時は退任して家庭に在り、從七位勳五等の位勳を有帶せり。

一 寄附者の祖先

鳥居家は名古屋開府以來の舊家にして代々藩主徳川侯の家臣たり。而して天文學を研究したりしは現戸主鳥居常雄より五代六代の遠祖に當れり。名古屋市史人物編第二卷第十四天文曆數の部に記載せられたれば抄出してここに記するものなり。

1. 「鳥居圓秋」

鳥居圓秋、名は千之、喜源次と稱し、圓秋居士と號す。尾張侯の臣なり。吉通の時、内證詰となり、歳俸十石月俸二口を賜り、後寛保四年に至り、歩行組に轉じ、二石一口俸を加賜す。幼より天文推歩に心を潜め、大野伯友に従ひて學ぶこと年あり。伯友は井口先生の門下なり。圓秋其の傳を受け蘊奥精究し頗る先人未發の妙あり、世出藍を以て之を稱す。延享元年夏江

戸に祇役し、秋八月三日病を以て東武の官舎に歿す。享年五十四。江戸牛込宗圓寺に葬り、月照秋圓居士と法諡し、又城南(名古屋市中區白川町)法應寺に墓を建つ。著す所曆儀新解、諸曆通解等あり。門人に植田喜政、川邊信一、眞野義敦、山中忠義、伊藤邦親、水谷集征、山田重要、鷺崎正知、片岡守興、岡野文猷等あり。

2. 「鳥居貞之」

鳥居貞之、字は君享、小字是和吉、曾之右衛門と稱す。圓秋の子なり。父に従ひて天文曆數を學び、頗る之に通ず。延享三年俸を賜ひ、寶曆三年藩主の女頼君(近衛内前の室、靈樹院)の歩行となり、歳俸八石月俸二口を賜ふ。頼君薨する後、小普請組に入り、明和元年恭君(九條道前の室、光樹院)の歩行となり、尋いで病を以て辭し、三年地方目付となりて五石一口を加賜す。六年藩主陸の生母英巖院の侍となり、八年再び恭君の侍目付となりて、歳俸二石を加賜す。後公子勝長の用役並となり、歩行頭を兼ね、百五十俵を賜ひ、文化六年長圍爐裏番となり、勤勞久しきを以て白銀の賞あり。同年十二月八日歿す、享年七十九、法應寺に葬り、了諦院觀叟義密居士と法諡す。

附 記

天文分野之圖寄贈の動機

天文分野之圖は別紙寫眞の如き掛軸にして、鳥居家遠祖圓秋、貞之等の藏したるものにして、從來鳥居家の家寶として保存したるものなるが、現戸主常雄氏は永代に之を保存するの困難にして徒に之を死藏するも何の益する所なく將來の子孫或は之を湮滅せしむるあらんことを思慮し小生(幼時より學友にて親交あり)方に之を持參し何か斯學界の參考資料ともなれば適當の筋に寄贈したしとの申出でありたれば小生は大に其の志を喜び、遂に貴山本先生の御耳に入れ、其の御内諾を得、今日公式に貴臺の御採納方を願ひ出でたるものなり。

以 上

山 田 如 義 記 す